

# としょかん南アルプス



南アルプス市立図書館通信 No.55 2023年10月1日発行 <http://m-alps-lib.e-tosho.jp/>



南アルプス市在住

## 加藤 当白

かとう とうはく

第20回「川柳マガジン文学賞」大賞受賞

## 読書と川柳

ヤマメキギョウと振り向く本の森 当白

本とはほぼ無縁だった少年時代、小笠原商店街は世界のすべてでした。仲町児童公園、おもちゃの川口、両国屋、シマヤ、野中楽器、小松屋、デイリーヤマザキ、いちやま、日の出、サンシャイン、グーチョキパー、それにバーガーショップもありました。当時熱中したゲーム、ドラゴンクエストの音楽に浸ると、遊びほうけていたこの時代がときに思い起こされます。

そんな私が本をむさぼるようになったのは、十数年前に父が他界してからです。あまりに早すぎる別れに直面したことで、いったい人生とはなんなのか、生きるとはなんなのか、この世とはどうなっているのかといった問いが、次々にあふれてきたのです。以来、これらの答えを求めるかのように、興味のおもむくままに読みあさってきました。哲学、宗教、精神世界、自己啓発、人生論、文芸論、芸術論など、いずれも浅学のレベルですが、こうして未知の世界にふれられたのは、さも父の導きだったのかとさえ感じることがあります。

やがて川柳という短詩文芸に出逢います。元来、同居していた祖父が川柳人、伯父が俳人という環境にありましたが、ある感動がきっかけで8年ほど前に独学で始めました。自然詠である俳句に対し、川柳は心情の機微をえぐる人間詠。

わずか十七音における、表現と解釈の自由度の高さ、懐と幅の広さ、奥の深さ、それゆえの難しさは短詩文芸上、他の追随を許しません。一生かけて追究していくに値する文芸だと、私は思っています。

市内の図書館には祖父・加藤当百と伯父・加藤勝の句集もいくつか所蔵されています。読書にせよ、文芸にせよ、図書館という存在は、言葉の海と自己の内奥に静かに浸ることのできる、身近で快適な空間です。



写真・本人提供

### ▶加藤当白さんプロフィール◀

- 本名・一郎。1977年生。  
南アルプス市小笠原出身・在住。会社員。
- ・山梨日日新聞「山日文芸・川柳」年間賞受賞(2017年)
  - ・やまなし県民文化祭「川柳」優秀賞一席(2017年)
  - ・第10回「高田寄生木賞」受賞
  - 『言行録からの川柳考』(エッセイ)(2020年)
  - ・第20回「川柳マガジン文学賞」大賞受賞(2022年)



### ▶影響を受けた一冊◀

『運命を拓く 天風瞑想録』  
中村天風／著 講談社文庫

#### ▶コメント▶

「ものの見方、考え方が好転した一冊です。読む前の自分にはもはや戻れません。」

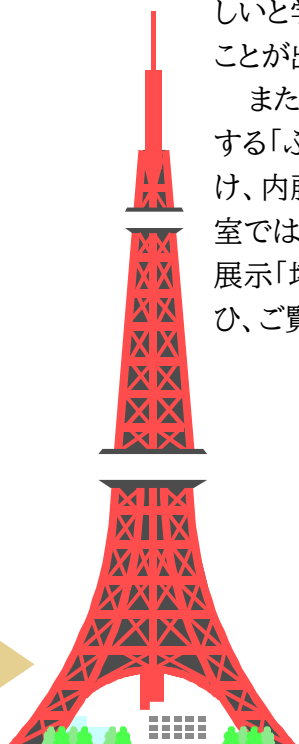
# 『東京タワーをつくった男・内藤多仲』

江宮隆之／著 内藤多四郎／早稲田大学名誉教授 山田眞／監修  
南アルプス市教育委員会／南アルプス市立中央図書館／発行

**南** アルプス市立図書館ふるさと人物室では、ふるさとの人物についての記録を残す事業に取り組んでいます。令和4年度は、作家の江宮隆之先生にご執筆いただいた伝記『東京タワーをつくった男・内藤多仲』を発行し、子どもたちの郷土教育に広く役立てて欲しいと学校図書館にも配布しました。こちらは市立図書館で借りることが出来ますので手に取ってみてください。

また、令和5年度は、この伝記を原作として B&G 財団の実施する「ふるさとゆかりの偉人マンガの製作と活用事業」の助成を受け、内藤多仲氏の偉人マンガ製作を進めています。ふるさと人物室では、この事業に合わせ、令和5年10月14日(土)から第13回展示「塔—とう—内藤多仲」を開催いたしますので、この機会にぜひ、ご覧ください。

**有** 数の地震・台風大国である日本に、当時世界で一番高かったエッフェル塔を越す333メートルものタワーを建てるのは、大変な苦勞でした。東京タワーは、関東大震災の2倍の規模の地震に耐えられるうえ、頭頂部は風速90メートルの強風にも耐えられる構造になっています。コンピューターはおろか電卓さえない時代に、複雑な計算をそろばんや計算尺でおこない、それらを可能にしたのです。そうした努力の結果、シンプルで無駄のない、あの美しい東京タワーが誕生しました。



## ▶内藤多仲博士 プロフィール◀

榊村(現在の南アルプス市)出身の建築構造学者、建築家。明治43(1910)年、東京帝国大学工科大学建築学科を卒業し、同大学大学院に進学。同年、早稲田大学講師に就任し、大正元(1912)年に教授となる。大正13(1924)年、アメリカ留学時のトランク破損を基に発見した「架構建築耐震構造論」で工学博士となる。この理論により設計された歌舞伎座は、関東大震災でも被害を受けなかった。その後、昭和33(1958)年に開業の東京タワーを設計し、「耐震構造の父」「塔博士」と呼ばれ、山梨県内でも県庁舎本館など多くの建物の設計を手がけた。

南アルプス市立中央図書館の中庭には、実物の75分の1の模型で、高さ444cmの東京タワーがあります。細部まで忠実に再現されているので、近くでじっくりとご覧ください。

## ふるさとふくしま情報(地方紙)提供事業 『福島新聞』を閲覧できます

福島県では、県外に避難を継続している県民が避難先でも福島の情報を得られるようにと全国の公共施設等の協力のもと、情報提供事業を行っています。

南アルプス市立図書館では、この事業に協力し、中央図書館の新聞・雑誌コーナーにて『福島民報』『福島民友』を閲覧することが出来ます。



中央図書館 新聞・雑誌コーナー



中央図書館(055-280-3300) 中央図書館芦安分館(055-282-7285) 白根桃源図書館(055-284-6010)  
八田ふれあい図書館(055-285-5010) わかくさ図書館(055-283-1501) 甲西図書館(055-282-7291)